

## 山梨県の真正クモ類に関する文献

大 野 正 男

東洋大学自然科学研究室

### Synopsis

OHNO, Masao (Natural Science Laboratory, Toyo University, Tokyo): Bibliography of Araneae of Yamanashi Prefecture, Japan. *Acta arachnol.*, **27** (Special number): 315-320 (1977).

Yamanashi Prefecture is situated in the middle of Honshu, and is one of the mountainous prefectures in Japan, with Mt. Fuji, South Japan Alps, Mts. Yatsugatake, Mts. Oku-Chichibu, Mt. Daibosatsu, and others. The author, in this paper, gives a short historical review of the studies of Araneae in Yamanashi Prefecture, accompanied with a list of 39 articles, including the local publications, published in Japan untill today.

山梨県のクモ類を扱った最古の文献は石沢・岸田・矢後(1926年1月), 岸田(1926年11月)であるが, いずれも富士山の動物全般に関する報文の中でクモの種名をかんたんに扱っているにすぎない. 本格的なクモの文献としては岸田(1928)をもって嚆矢とする. これは, 前記2篇の報文の本報に当たるもので, その中には静岡県側の所産種を含め, 富士山地域から87種のクモが記録されており, イシサワオニグモの原記載のような重要な内容も含まれている.

富士山地方は, その後1930年代後半に入ると東京高等師範の山中湖地域の調査が始まり, その資料に基いて, 関口(1940)によるクモ類の記録が報告された. また, 近年に至っては富士急行, 国立科学博物館, 国立公園協会などの調査が相次いで行なわれ, さらに, 東京クモ談話会のメンバー, あるいは日大三島高校生物部などによる調査がくり返され, 現在までに, 山梨県側だけで200種以上のクモの所産が明らかにされるに至った.

しかし, 同じ山梨県内であっても, 富士山地域以外ではクモ類の調査はあまり進んでおらず, 多少なりとまとまったリストが作られているのは, 大菩薩峠, 静川村, 甲府市湯村山の3地域にすぎない.

大菩薩峠は深沢(1935)による調査が最初で, その後, 大河内(1969), 権田(1972)などの報告が続き, 現在までに約70種の分布が明らかにされている. 静川村もまた深沢(1937)により調査されたもので, この地域からは64種のクモが記録されている. 深沢治男氏は郷里が山梨であったため, 帰省の折に大菩薩, 静川村などの調査を手がけた訳であるが, 熱心なクモの研究者であったにもかかわらず, 若くして世を去った. もし, 氏が健康に恵まれていたら, 山梨県のクモ類について, あるいはもっと多くの先駆的な業績を残していたかもしれない.

甲府市湯村山は, 市内にある丘陵状の低山であるが, この地における甲府一高生物部の総合調査の一環としてクモの調査がとりあげられ, 1971年には, それまでのデータが集約されてクラブ誌に発表された. これには21科109種のクモが記録され, 山梨県下にあつては富士山麓に次ぐまとまりあるリストになっている. そうして, その中にはマメイタイセキグモ, スズミグモ, スズキコモコリグモなどといっ

た分布上注目すべき種も含まれている。また、この湯村山の山麓にある法泉寺のクモについては長田(1974, 1975)の調査があり、極めて狭い地域ながら46種のクモの所産が明らかにされている。

上に挙げた地方以外では、富士川流域、南アルプス地方などから、クモの記録を伴ういくつかの動物の報告があるが、いずれも断片的で、それによって、それぞれの地方のクモ相を伺い知ることとはできない。筆者自身も、金峯山麓をはじめ、大菩薩峠、初狩附近などでクモ類の分布調査を試みているが、これらはまだ印刷の段階に至っていない。

山梨県は富士地方の他、南アルプス、大菩薩峠、奥秩父地方など、ほとんど全県的に自然に恵まれているにもかかわらず、植物についてはともかく、動物については調査がたち遅れ、その知見は極めて不完全な状況にある。昆虫では、昨年(1976)地元にて同好会が誕生、地元の同好者による組織的な調査が開始されたが、クモではまだそうした態勢はつくられていない。甲府一高の生物部でクモを研究の対象にした部員が数名いたが、それらの中で、現在、東亜クモ学会の会員になっているのは雨宮 健氏ただ一人である。しかし、低調であった山梨県にも、現在ではこの雨宮氏を含め4名のクモ学会会員が生まれている。不完全ではあるが、ここに山梨県のクモ類に関する従来の知見がまとめられたのを機に、こうした地元の研究者を中心とする、新しい、全県的な規模の調査態勢が確立されることを期待したいものである。

本稿を草するに当り、文献資料入手の上でご援助を得た雨宮健、花野井忠司、勝屋志朗、長田典久、新海栄一、八木沼健夫の諸氏に対し、改めて厚くお礼申し上げたい。

なお、末筆になって恐縮であるが、このたび還暦を迎えられた八木沼健夫先生に、心からなる祝意を表したい。先生は、日本のクモ学の発展に大きな足跡を残してこられたが、富士地方、特に溶岩洞のクモ相についても刮目すべき貢献を果しておられる。ここに、拙ない小文ではあるが、小稿を先生にささげ、日頃のご恩にむくわせていただきたいと思う。

## 文 献 目 録

ここには、現在までに筆者の手もとに集まった山梨県の真正クモ類に関する文献資料のすべてを、著者のアルファベット順に配列し、かつその内容をかんたんに解説した。見落した文献もかなりあると思われるが、それらについては「日本産真正クモ類分布資料」で山梨県のクモを扱うときにでも追録したいと考えている。お気づきの資料について大方のご教示がいただければ幸いである。特に、山梨生物同好会の「山梨生物」に、参照できなかった号が多数あること、県下の高校クラブ誌が、甲府一高の「生物誌」(これさえ完全な形では見ていない)を除いて全く調査できなかったことの2点は心残りではない。

雨宮 健, 1968. クモの研究. 甲府一高生物部誌, **15**: 19~22.

スグロオニグモの内部構造についての観察. 甲府市の甲府一高および受岩山周辺の材料を用いる。

雨宮 健・阪本哲郎・中込義之, 1969. クモの研究. 甲府一高生物部誌, **16**: 44~48.

1968年5~10月, 甲府市湯村山のクモの分布状態を調査した結果をまとめたもの。40種のリストの他、マメイタセキグモ、トゲグモ、オナガグモ、マネキグモ、ハマキグモ類などについての解説をつける。マメイタイセキグモとトゲグモについては全形図を附す。

深沢治男, 1935. 大菩薩峠山麓の蜘蛛. 芝中, (25): 5.

1935年夏の採集観察記録. 活版の印刷物であるが、あまり目にふれない文献なので、記録された種名全部を挙げておくことにする。種名ミスプリントと思われるものもあるが、すべて原文のまま。

イウレイグモ、ケナシイウレイグモ、オニグモ、イエオニグモ、ゴミグモ、オホヒメグモ、ユカタヤマシログモ、ハヘトリグモ、アワセグモ、タナグモ、ハグモ、コガネグモ、ナガコガネグモ、コケオニグモ、ナカムラオニグモ、チャウログモ、チグモ、クサグモ、アフギグモ、ツクシハグモ、オナガグモ、アシナガグモ、ヤサガタアシナガグモ、ドヨウグモ(?), フタホシトゲグモ、ヒラタグモ、アナグモ、キアシカニグモ、ワカバグモ、ハナグモ、コササグモ、イワイロハシリグモ、アカアリグモ、クマアリグモ、スジボソアシリグモの35種。

深沢治男, 1936. フノジグモの卵囊に就いて. *Acta arachnol.*, **1** (4): 141.

山梨県南巨摩郡静川村産の材料について観察.

深沢治男, 1937. 山梨県静川村に於て獲たる蜘蛛. *Acta arachnol.*, **2** (2): 78~82.

1935~1937年の間に採集したクモの記録. チュウガタコガネグモ、アカイトロノフンダマシなど64種.

権田重雄, 1972. 真正蜘蛛各地の同定目録. *Kishidaia*, (29~32): 9~13.

1970年6月, 大菩薩(裂石~丸川峠~大菩薩嶺)で採集したクモ24種の記録. 大河内(1969)の記録に12種追加.

石沢健夫・岸田久吉・矢俊正俊, 1926. 富士山に於ける動物の垂直分布. 動物学雑誌, **38**(447): 5~7.

富士の動物相に関する略報. 高山帯下層にサラグモ、ヒメグモ類、中層までドクグモ類がみられること、特産種として *Araneus ishizawai* のあることなどが記される.

泉 昌彦, 1974. 樹海の洞窟にはメクラの生物たちがいる. 「富士霊異記」: 93~95 (白金書房)

ホラヒメグモ、マシラグモなどの紹介.

岸田久吉, 1926. 富士山動物概論. 東洋学芸雑誌, (523): 653~663.

富士山の動物, 特に垂直分布について論じた報文. クモも材料にとりあげられ, この地域から2目26科114種の蛛形類が確認されたことが示されている. しかし種名が明記されているのはクサグモ、コクサグモ、イシサワオニグモなど数種にすぎない.

岸田久吉, 1928. 富士の動物. 「富士の研究 Ⅴ」: 1~515 (古今書院).

スズキドクグモなど87種を記録. イシサワオニグモの原記載を含む. ただし静岡県側での記録種と山梨県側のそれとの区別がないので, これらのうち, どれだけの種が山梨県側から記録されたものか不明.

小林 巧・金丸豊子・望月 仁, 1971. 湯村山の蜘蛛の分布. 甲府一高生物部誌, **18**: 27~41.

甲府市湯村山におけるクモ類40種の種別活動期一覧表(1968~70年の3年間のデータをまとめたもの), クロトリノフンダマシなど2, 3クモ類の分布解説, 科別の個体数比率, オオギグモ, ツリガネヒメグモ, ギボシヒメグモ, シロブチサラグモ, ハナオニグモ, ドヨウオニグモ, サガオニグモ, ハツリグモ, チュウガタコガネグモ, クロトリノフンダマシ, トゲグモ, マメイタイセキグモ, スズミグモ, ヤマゴミグモ, ハラヒロアシナガグモ, スズキドクグモ, タカネドクグモ, トラフカニグモ, アンダカグモ, など所産種109種のクモ目録の項を含む.

小松 栄, 1931. 富士山動物目録. 「富士とアルプス」: 51~58 (白林社)

岸田 1928 に記録された種の孫引.

KOMATSU, T., 1968. Cave spiders of Japan II. *Cybaeus*, *Dolichocybaeus* and *Heterocybaeus* (Cybaeinae): 1~38 (東亜蜘蛛学会)

小袖洞から獲られた *Cybaeus shingenni* シンゲンナミハグモの記載を含む.

熊野正雄, 1943. 富士山の洞窟動物, 博物学雑誌(東京), **39**(73): 51~56.

西湖のコウモリ洞よりヒメグモ, ドヨウグモを記録, 他に産地名なしで不明種13種あることを附記.

国見裕久, 1969. 山梨県西湖付近のクモ. *Kishidaia*, (8): 5~6.

1968年8月の採集記録. コケオニグモなど29種を記録.

中込義之他5名, 1970. クモの研究. 甲府一高生物部誌, (17): 34~38.

イエオニグモの造網活動と気温・照度との関係の他, マメタイセキグモの解説, 湯村山のクモの概説など. 湯村山には100種にのぼるクモの分布することを記しているが, 種名はいちいちあげられていない.

中村 司・依田正直, 1971. 動物, 「富士川国定公園候補地学術調査報告書」: 27~95 (国立公園協会). 増穂, 鰍沢, 市川大門, 中富, 下部, 早川, 身延, 南部, 富沢の各町からハエトリグモ, ワカバグモ, ハナグモ, ウズキドクグモ, コガネグモ, ナガコガネグモ, ジョロウグモ, オニグモ, ゴミグモ, アシナガグモ, ヒラタグモ, オオヒメグモ, ゼグモ, トタテグモの14種を記録.

大河内哲二, 1969. 各地のクモ同定記録. *Kishidaia*, (9): 3~6.

1967年5月および1969年5月, 大菩薩峠における採集記録. アマガエビスグモなど49種.

Or, R., 1960. Linyphiid spiders of Jappan. *Journ. Inst. Polytech., Osaka City Univ.*, D (1)1: 137~244, 26 pls.

山中湖畔で得たヤマジサラグモを記録. 記載をつける.

Or, R., 1964. A supplemmentary note on *Linyphiid* spiders of Japan. *Journ. Biol. Osaka City Univ.*, 15: 23~30, 3 pls.

白樺湖畔産のカナコギグモを記録.

小野展嗣, 1976. 富士山の蜘蛛 check list. *Kishidaia*, (40): 6~10.

1975年8月, 東京クモ談話会会員13名により, 浅間神社(吉田口), 平野, 忍野, 内野, コウモリ穴, 五合目, スバルライン三合目などで採集されたクモ79種の記録. ツノオニグモ, キタグニオニグモ, キンカタハリオニグモ, ヤマキレアミグモなど.

長田典久, 1974. クモの研究. 甲府一高生物部誌, 21: 29~35.

甲府市法泉寺境内のクモ類の種類とその生息環境についてまとめ, ツリガネヒメグモ, コオニグモモドキ, クロボシカニグモなど32種, 主要なクモ属の属を単位とした分布図をつける.

長田典久, 1975. クモの研究. 甲府一高生物部誌, 22: 21~25.

法泉寺および法泉寺裏の湯村山にかけての区域を含めた地域での分布調査で, スジアカハシリグモ, ゴマジロオニグモ, マネキグモ, アワセグモなど前報に含まれないクモ14種を追加, クモの出す油についての実験結果も附記.

齊藤貞夫・菅沼澄生・石垣孝彦・齊藤勝弥, 1969. 山中湖及びその周辺の生物採集調査の結果(その1) 蜘蛛. 思索, (1): 6~8.

1968年6月, 8月, 9月および1969年1月の調査結果. タカネドクグモ, スズキドクグモなど185個体41種の記録. 同定ミスと思われる種類を含む.

流石英治・篠原 博・秋山樹好, 1929. 南アルプスの動物. 「日本南アルプスと自然界」: 255~307 (甲府朗月堂書店).

スジブトハシリグモ, アズマカニグモ, ワカバグモ, ハエトリグモ, アリグモの5種を列挙.

佐藤正義・関下俊英・新海栄一, 1970. 日本私学教育研究所周辺の生物相(Ⅲ). 日本私教研紀要, (5): 383~394.

スネグロオチバヒメグモの産地に山梨を挙げる。

関口晃一, 1940. 山中湖及湖畔の動物相 (XII) 真正蜘蛛類 (1). 博物学雑誌 (東京), **38**(68): 31~39. 1 pl.

1938年 (河西芳一), 1939年 (関口晃一) における調査資料に基く記録. 37種のリストとヨツボシアカムネグモなど11種についての解説.

関口晃一, 1940. 山中湖及湖畔の動物相 (XX) 真正蜘蛛類 (2). 博物学雑誌 (東京), **38**(69): 6~13. 1 pl.

前報の続き. 35種のリストとカチドキグモなど10種の解説.

関口晃一, 1943. 富士山及其附近の動物 (XXVI) 洞窟産多足類蜘蛛類及びその他二, 三昆虫類に就いての小観察. 博物学雑誌 (東京), **39** (73): 44~46.

雁穴, コウモリ穴などで15種44個体を得たことが記録される. ただし, 種名について明記されたものはない (大型のヒメグモ, ドヨウグモの1種とあるだけ).

新海栄一, 1970. 東京蜘蛛談話会最近の収穫より. *Kishidaia*, (18): 3~5.

セスジガケジグモ (岩谷), コケオニグモ (西湖) を記録.

菅沼澄生・土屋博義・斉藤守彦, 1970. 山中湖及びその周辺の生物採集調査結果 (その2) 蜘蛛. 思索, (2): 5~6.

1969年9月, 山中寮付近, 山伏峠~御正体山, 山中湖北西部のハリモミ林, 石割山附近などで採集したクモ9科18種の記録. キンヨウグモ, クロコドクグモなど.

東京高師理科, 1937. 「富士山附近の動物目録」: 1~56 (東京高師)

岸田 (1928) の「富士の動物」の孫引.

上野俊一, 1971. 富士溶岩洞の動物相. 「富士山 (富士山総合学術調査報告書)」: 752~759 (富士急行KK).

富士山地城のマシラグモ類, ホラヒメグモ類の分布にふれる.

UENO, S., 1971. The fauna of the lava caves around Mt. Fuji-san. 1. Introductory and historical notes. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo*, **14** (2): 201~218.

富士溶岩洞のクモ類の研究史にふれる. 岸田久吉氏の調査については小松敏宏氏の私信による情報も附記される.

八木沼健夫, 1969. 珍蛛マメイタイセキグモ山梨県で発見. 昆虫と自然, **4**(6): 19.

甲府市湯村山で甲府一高生物部によって採集された 1 ex. (1968年8月) の記録.

八木沼健夫, 1971. 富士山の真正蜘蛛類 (予報). 「富士山 (富士山総合学術誌査報告書)」: 1018~1021 (富士急行KK).

45種のうち, 山梨県側より32種 (洞窟産13種を含む)

YAGINUMA, T., 1972. The fauna of the lava caves around Mt. Fuji-san IX. Araneae (Arachnida). *Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo*, **15** (2): 267~334.

学名未確定種4種を含め, 山梨県下から24種を記録. 次の7新種1新亜種の記載を伴う.  
*Merizocera nipponica*, *Nesticus latiscapus*, *N. latiscapus kosodensis*, *Taranucnus nishikii*, *Arcuphantes fujiensis*, *Cybaeus fujisanus*, *Cicurina troglodytes*, *Coelotes kitazawai*.

八木沼健夫・西川喜朗, 1973. 富士山の蜘蛛. 「富士山西斜面学術調査報告書」: 120~145 (建設省中部地方建設局富士砂防工事事務所)

静岡県側産のものを含め143種のリスト (うち山梨県側84種?), 岸田 (1928), 関口 (1940) と

合せて 214 種になることを附記。サイコホラヒメグモなど主要種の解説，溶岩洞のクモ相などにもふれる。

八木沼健夫・新海栄一，1971. 分布資料. *Atypus*, (55): 33～34.

富士山五合目，小袖からフタバヤチグモを記録。